

経済マンスリー [原油]

原油価格とドル相場の関係

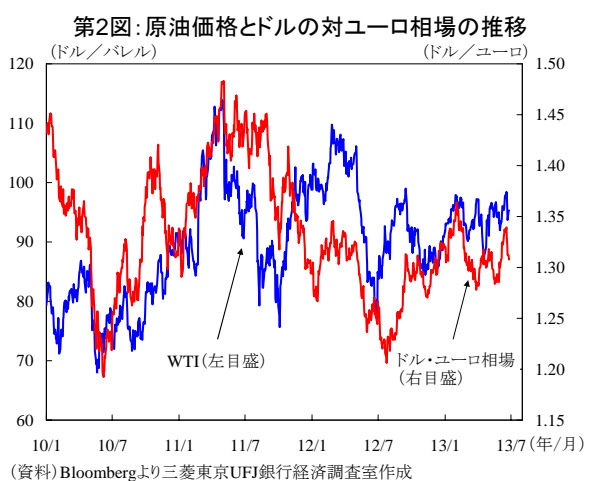
原油価格（WTI 期近物）は、6 月に入りシリア情勢への警戒感や好調な米経済指標を背景に上昇傾向を辿り、18 日には 98 ドル台と 9 ヶ月振りの高値となった（第 1 図）。しかし、バーナンキ米連邦準備制度理事会（FRB）議長が量的金融緩和の年内縮小に言及したことや中国の景気減速懸念を受けて、原油価格は軟化し、95 ドル近辺で推移している。

原油価格に影響を与えているのは、需給要因のほか地政学リスク要因や金融要因がある。金融要因の一つにドルの対ユーロ相場があり、ドル安になると原油価格が上昇する関係が頻繁に見られる（第 2 図）。

ドル安が原油価格上昇につながる経路として、①原油はドル建てで取引されることから、他通貨からみた割安感により買いが入る、②ドルの代替資産として実物資産が選好される、が挙げられる。また、石油輸出国機構（OPEC）にとってドル建ての原油収入が目減りするため価格上昇へのインセンティブが高まり、生産を抑制することもある。

ただし、必ずしもドル安・原油価格上昇となっていない局面もある。例えば 2011 年末～2012 年初には、ドル高が進んだ中で原油価格は 100 ドル台で高止まった。これは、イランの核兵器開発を巡る緊張から供給懸念が強まったためであり、地政学リスク要因の影響が大きかったといえる。また、今年 4 月中旬にドル安が進んだが、原油価格が大幅に下落したのは、中国の成長率伸び悩みを受けて世界需要後退が懸念されたことによる。

今後、米国の量的緩和縮小が意識される中、ドル高基調が見込まれ原油価格を抑制するとみられるが、中東情勢の緊迫や中国経済の先行き、米国シェールオイル増産等が原油価格に与える影響も引き続き注視する必要がある。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko_ishimaru@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。